光と風のゲート

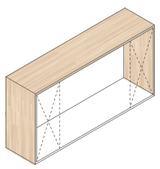
CLT長尺板による門型フレームをずらしながら連結することで、CLTならではの新しい家を創り出します。

門型の直交方向にはフレキシブルな無柱空間が豊かに拡がり、連結部の隙間では効果的に風が抜け、段状の屋根は四季に応じて日射を適切に制御するなど、門型フレーム自体が縁側のような機能を備えます。また熱容量が大きい厚板CLTを採用することで、その特性である調湿効果や蓄熱機能を発揮します。

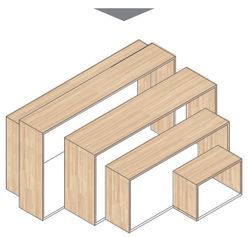
季節によって環境が異なる日本に適したCLTの活用方法によって、これからの時代の新たなストックになりうる、良質でサスティナブルな家を目指します。

コンセプトCG

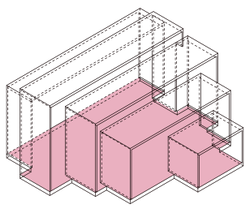
構成概念



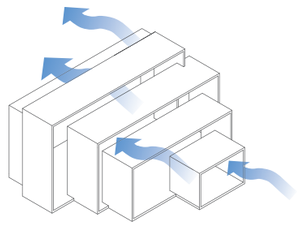
構造的に自立した門型フレームを構成する
CLTが備える調湿効果や蓄熱性能を活かすために、厚板での利用を前提とする
※平断面の要求と製作運搬等の合理性によりサイズを設定



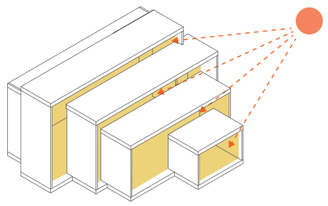
門型フレームをずらしながら連結する
薄い構造体でロングスパンを形成し、ずれが生み出す開口部を活かした計画とする



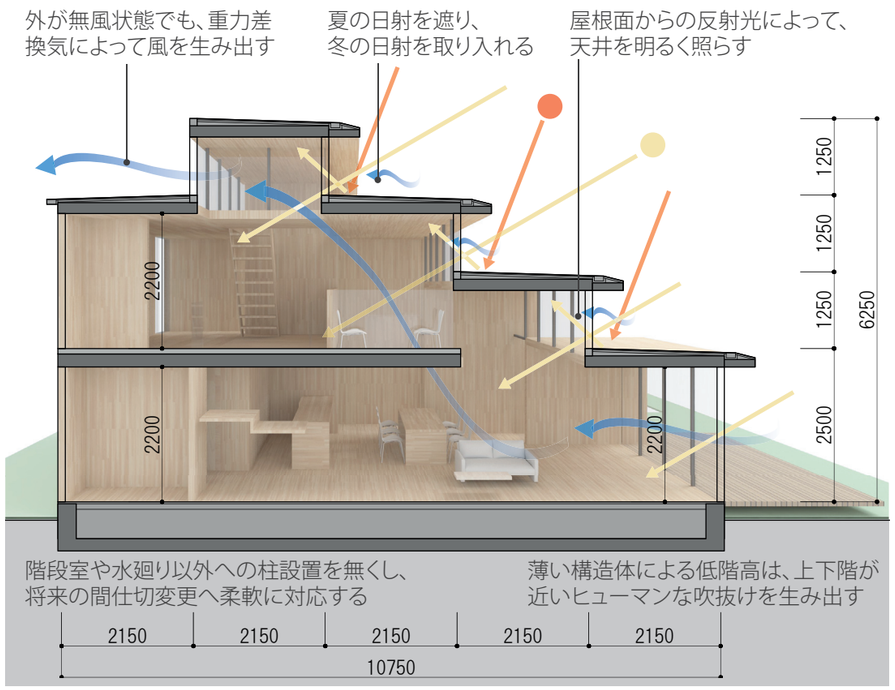
フレキシビリティが高い家
門型フレームの連結によって、自由度が高い無柱空間を確保する



風通しが良い家
風下側においても正圧を保ち、新鮮な風を抵抗なく呼び込む



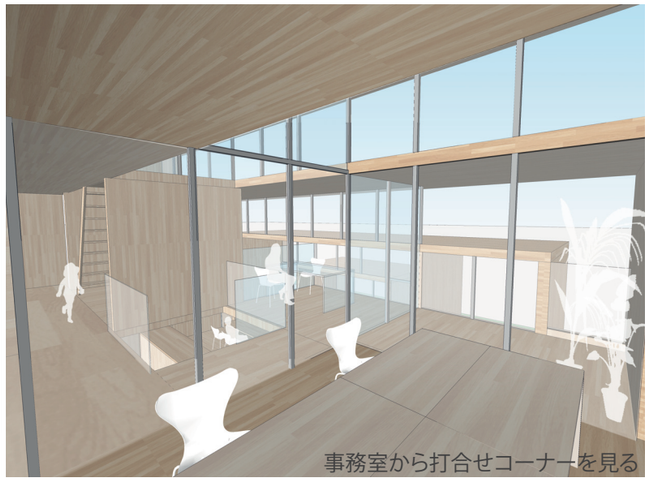
最適な採光を得る家
家のどこでも、夏の日射を遮り冬の日射を取り入れる



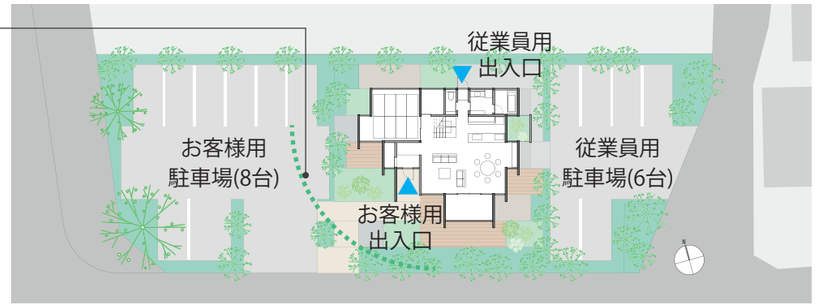
リビングダイニングからの見上げ

リビングダイニングを見下ろす

玄関からリビングを見る


事務室から打合せコーナーを見る

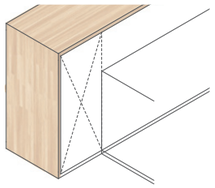
南へ完全正対せずに雁行平面とすることで、**大通りや来客用駐車場に対する表情**を作り出すとともに、**前庭の拡がり**を生み出す



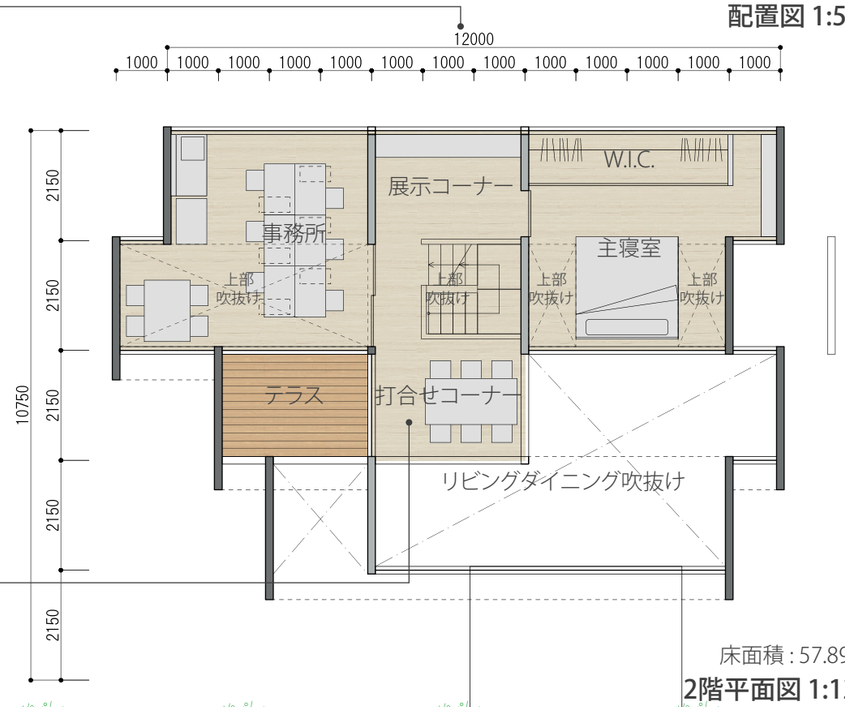
配置図 1:500

CLT屋根版の大きさは、運搬時の合理性が高い**幅2300、最大長さは12m**に設定し（幅サイズは様々なバリエーションが考え得る）、庇部分には幅500のパネルをジョイントする

平面的に雁行した部分への**耐震ブレースの設置**、もしくは妻面壁の見込方向サイズ拡大によって、水平剛性を確保する



吹抜けを見下ろす**ベストポジションにある打合せコーナー**（住宅利用時には、書斎もしくは子供の勉強スペースとしての利用を想定）



床面積：57.89㎡

2階平面図 1:120

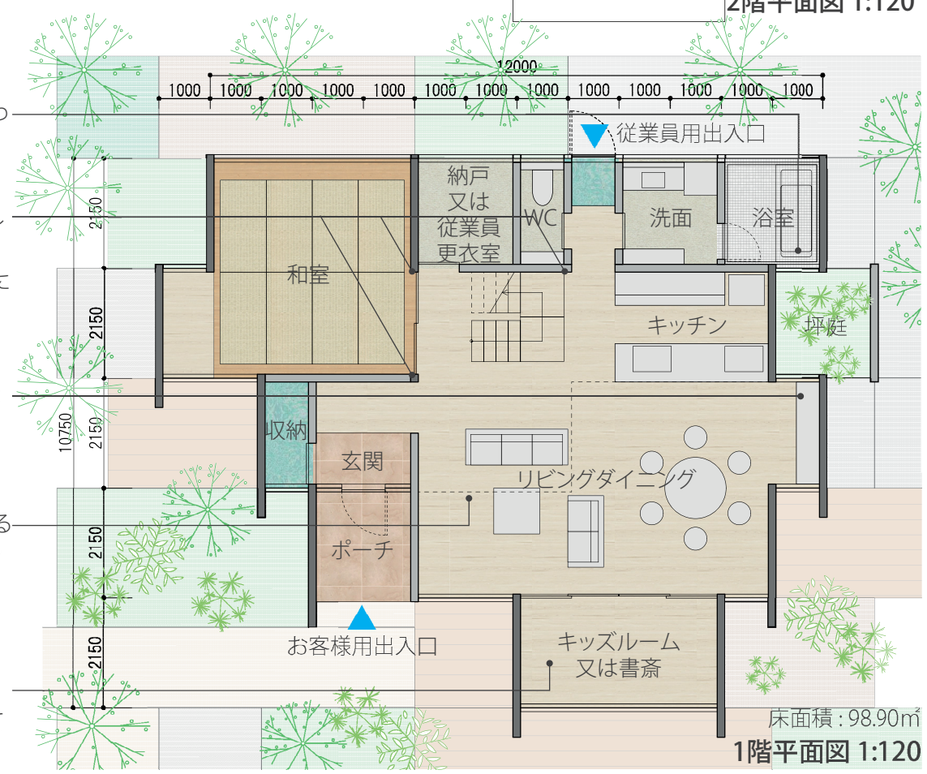
雁行平面を活かし、程良く囲われた坪庭に面した浴室

将来的な間仕切変更に影響しにくい階段室廻りには柱を設置し、**最大スパンは８m**程度に抑える

家事の合間のアイロン掛けなど、ちょっとした作業が出来る便利なアルコーブ

間口7～８mの無柱空間となるリビングダイニングは、門型フレームならではの付加価値となる

リビングと一体的な利用も可能なキッズルーム。書斎としての利用も可能



床面積：98.90㎡

1階平面図 1:120